



五つとせはげむ 学び舎の (校歌より)

CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P6 ▶ 第58回体育祭

P9 ▶ ディベートコンテスト(旧弁論大会)

P10 ▶ 第58回高専祭

P12 ▶ 活躍する仲間

P16 ▶ 学校通信

Special Interview

～はじめに～



第34回高専プロコン 「みせよっさ∞の可能性」

電子情報工学科 齊藤 徹

全国高等専門学校プログラミングコンテスト(以下高専プロコン)は、全国の国公立の高専でのプログラミング技術や情報通信技術におけるアイデアと実現力を高めるために始まったコンテストで、本校からも電子情報工学科を中心に毎年参加しています。

今年は本校が主管のなか、サンドーム福井にて10月14日(土)、15日(日)で開催され、競技部門では念願であった優勝を勝ち取ることができました。運営にあたり、教職員の皆さんおよび電子情報工学科の学生さんには、運営にて多大な協力を頂くなか無事に終えることができ、ご協力ありがとうございました。

高専プロコンは1990年の第1回大会に始まり、課題部門・自由部門ではプレゼンテーション・デモンストレーション・マニュアルなどの審査が行われます。第5回大会(富山)からは競技部門が設けられ、例年パズルや戦略系の問題を速く正確に解くプログラムを作ることが求められます。福井高専でもこの第5回大会から競技部門にて本選に参加し同年第3位、翌年第6回函館大会では競技部門にて準優勝となりました。課題自由部門はアイデア資料による予選審査が行われることから最初は本選に参加することが難しい状況でした。電子情報工学科では具体的な目的をもったシステム構築の体験を通しものづくり意識が高まることから、4年前期の創造工学演習にて様々なコンテスト応募を目標にシステムを構築するなか、高専プロコンに応募していました。課題自由部門では組込み系技術を応用したものづくりに力を入れ、最近では毎年本選に参加し企業賞や敢闘賞を受賞しています。しかしながら最優秀賞・優秀賞・特別賞などの受賞はありませんし、競技部門も最初の2回以降は入賞ができていませんでした。

この中で、2年前に本校が主管で大会を実施することとなり、全国高専の高専プロコン実行委員の先生の協力を頂きながら準備を進めてきました。県内情報系での大きなイベントとなることからサンドーム福井を押さえ、テーマやポスターを学内で募集し、特にこの1年間については資料作成や運営などの準備で慌ただしい状態でした。この中で電子情報の先生や電子情報OBで企業にて活躍されている方などの協力も得ながら応募作品を準備し、予選では課題部門2テーマ、自由部門2テーマ、競技部門1チームで応募し、自由部門1テーマと競技部門1チームが本選に参加となりました。

本選参加にあたり学生は夏休み期間も準備を進め作品を作り上げていきました。今回、競技部門では戦略型の陣取り合戦のテーマでしたが、学生は数手先を読むAIによる戦略だけでは大局観での能力が不十分していると判断し、対戦中に人間が攻める場所のヒントを与える機能を設けたことが功を奏し、勝利を重ねていきました。私も大会運営の合間にネット配信をみながらの応援でしたが、最終試合も接戦のなか優勝となりました。おかげで大会運営の疲れも吹き飛び、気持ちよく高専プロコンを終えることができました。今後も高専プロコン運営を手伝うなか、本校から課題自由部門での入賞も目指していきたいと感じました。



Special Interview

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
～はじめに～
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■かけがえのない人生、
おもいきり楽しんで

教育後援会長 山 博充

本年度教育後援会会長を拝命致しました山と申します。

会員の皆様、教職員の皆様には、日頃より教育後援会の活動に、多大のご協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。歴史と伝統ある福井工業高等専門学校 教育後援会会長は、身に余る大役ではありますが、責務を全うすべく、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様どうぞよろしくお願い致します。

2020年2月より猛威を振るったコロナウィルスも5月より5類感染症へ変更され、一つの節目を迎えました。マスクなしの生活も少しずつではありますが、始まりました。この間、学校側に置かれましては大変な舵取りをして頂きありがとうございました。大変感謝申し上げます。また学生の皆様にとっても、活動範囲がどうしても小さくなり、入学前に思い描いていた通りとはなかなかいかなかったと思いますが、何事も無駄にせず、得られなかったことも大きいですが、コロナという体験もそれはそれで将来において、また生かされると思います。

40数年前に私も本校にお世話になっておりました。当時より自由度の高い校風があり、いろんなタイプの人間を許容しておりました。今でもこの学校

に通えて大変良かったなと思っております。学生の皆様におかれましては、16才から20才という、人として物凄く成長する時期に、このたいへん魅力ある福井高専において学業、対人関係、スポーツ、社会勉強など様々なことを楽しみ、そして学んでください。これからの世の中、知識などは、AIにとって代わられるという話も伝わってまいります。皆様には、5年間で身に着けたいろんなことを使って、AIも使ってこれからの日本を支えるべく、巣立っていただきます。もちろん、それぞれの皆様のかけがえのない一度きりの人生を楽しんでいくということが、第一番ということは言うまでもありません。

本年度も教育後援会として少しでも学生の皆様のサポートができるよう、学校側とよく相談しながら対応して参りますが、会員の皆様におかれましては何卒どの学生に対しましても、ご子息のごとく応援してやろうというお気持ちになって頂き、ご理解、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

Special Interview

～はじめに～

リフレクションしよう！

1年担任 長水 寿寛

今年の夏に「リフレクション実践講座」をオンラインで受講しました。隔週の全6回、グループワークもあり、中身の濃い講座でした。ここではその一端をご紹介します。

副題には「自律型人材になるための」とあり、ここでいう自律型人材とは、「自ら定めた目的を実現するために学び続ける人」です。そういう人材になるためにリフレクションを行う、ということでした。

リフレクションには、自己を知る、ビジョンを形成する、多様な世界から学ぶ、経験から学ぶ、アンラーンする、の5つがあります。反省は、「変えられない過去に対する反省と責任の追及」と捉えます。リフレクションは、「自己を客観的かつ批判的に振り替える行為」で、すべての経験を学びに変えることができますと考えます。

リフレクションに欠かせないのが「意見」「経験」「感情」「価値観」の「認知の4点セット」です。私たちは過去の経験により形成されたものの見方でものごとを捉えるため、同じ情報に触れても、同じ意見を持ちません。感情に縛られた価値観に気づくことはとても大切です。この「認知の4点セット」を活用し、自己の内面をメタ認知することで、リフレクションの質を高めることができます。

講座にはいろんな職種の方がそれぞれの目的で参加されていました。私もこの講座を受講して、たくさんの気づきを得ることができました。みなさんも「リフレクション」を実践して、自律型人材を目指してはどうでしょうか。

参考文献:「リフレクション 自分とチームの成長を加速させる内省の技術」熊平美香(Discover)

自ら考えて理解する

2年担任 挽野 真一

2年生となり、学科によっては専門科目の授業が増え、1年生の時とは勉強の難しさが増したと思います。ここで役に立つこと、それは、考えて理解することについて少しお話をしたいと思います。私の専門は物理学です。その中で、物理的に理解するというものがあります。物理的に理解するとは、具体的に言えば、単に計算をして答えを導き出すだけではなく、その数式の意味していることを考えることを物理的に理解するといいます。この物理的に理解することは、すぐにできるようになるわけではありません。日々の学習から常に考えて、自分の頭で納得するように訓練をする必要があります。この訓練は、物理学の学習だけではなく、他教科そして会社で働くようになった時にも応用できると思います。考えて理解して行動するといったことは社会人にとって必要なスキルです。おそらく、学校の勉強はこのようなスキルを身に着けるための練習だと思います。是非、自分の頭で考えて理解し、そして行動できるように学校で訓練をつんで、社会へ羽ばたく準備をしてください。

今後の成長に期待

3年担任 丸山 晃生

3年生にとって、高専生活の半分が過ぎ去りました。これからも積極的に新たな挑戦に取り組み、残り的高専生活を充実させ、将来への成長に向けて努力し続けて欲しいと思います。

皆さんが「高専という選択」をした中学3年生の時には、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていました。そのため強い行動制限があり、中学校では修学旅行を含むほとんどの学校行事が規模縮小や中止となったことでしょう。高専入学後もその状況が続いておりましたが、今尚くすぶり続けている新型コロナウイルス感染症も今年の5月から5類感染症になりました。これにより基本的対処方針等は廃止され、行動制限は緩和されました。そして、行動に対して個人や組織の判断に委ねられることとなりました。

Special Interview

～はじめに～

今年度の研修旅行はコロナ禍前と同様に計画を進めています。福井高専の研修旅行は、3泊4日の団体行動の後、現地で解散して自主研修旅行となります。前半の団体行動では企業見学を通して働くイメージを育み、後半の自主研修旅行では仲間との絆をさらに深めて見聞を広めてください。また、研修旅行の1か月後には、100社を超える企業を本校に迎えてキャリア教育セミナーをコロナ禍前と同様に対面で実施する予定です。次年度のインターンシップ先を選択する上で大切な機会の一つですし、未知の企業との出会いにもつながるでしょう。これらの学校行事も効果的に活用することで、皆さんの成長に繋がってください。

アナログこそ大切

4年担任 金田 直人

学校生活ならびに社会も新たなスタイルに更新されて、コロナ禍から従来の（マスク無し等）生活に戻つつある状況となっている。入学当時からコロナ感染症に振り回され半年間の休校を余儀なくされた第4学年の学生も、日々の様々な変化に柔軟に対応しながら現在に至っている。同感染症が与えた影響はとても大きく、オンライン、Microsoft Teams、チャット、自動化、AI等といった言葉が珍しいものではなくなった。そのため、「新たな当たり前」が形成されつつあり、少し前の当たり前が通用しない昨今は新鮮とは言いがたく、より一層多様なことに対応が求められることとなっている。しかしながら、人間社会つまり人と人との繋がりは今も変わらない（変わってはいけない）。いくら便利でデジタルな技術が構築されても、最後はアナログな人間関係が最も重要になってくる。第4学年は様々な企業・教育機関・行政機関のご協力のもと、夏季休業期間中に校外実習（インターンシップ）に参加させていただいている。個人によるが、ここで得られたものはどのようなものであったらうか？各分野における技術も印象に残っていると思うが、ご担当者・関係者さらには高専の先輩社員の印象も強く残っているのではないだろうか。進級そして進路を決定するまでの時間は残り僅かといえる。自分の行動に伴うアナログな部分を意識してみると、新たな成長につながるかもしれない。限られた時間の中で、技

術者になるためのさらなる成長を応援します。まずは、挨拶からのコミュニケーションですね。（報告・連絡・相談も忘れずに!）

5年生へ

5年担任 大和 裕也

今年の夏は例年になく猛暑でエアコンの効いた部屋でゆっくりする時間が多い日が続いています。9月に入っても暑さはおさまらない中、学生の皆様は体育祭や高専祭の準備に尽力されて素晴らしいと思います。

私が大学生1年生や2年生の頃は、夏に関係なく1年中アパートの中でずっと動画サイトをみていて、たまにアルバイトをするような生活を送っていました。しかし、このままでは一生に一度しかない大学生活で後悔すると思い、3年生からは所属していたアーチェリー部の練習に熱心に取り組みしました。熱心に取り組みだした当初は大会などで結果が伴いませんでしたが、日々の課題などをノートに書き出し、また、自分の射形を動画で確認するなどして課題を克服していき、4年生では北信越大会での優勝やインカレ出場、また、国体の石川県代表選手として活躍することが出来ました。

部活動で結果を残すことが出来たのは、自分が大学生であったからであり、勉強以外の活動に多くの時間を費やすことが出来たことが要因であると思います。社会人になった今では、ほとんど練習することが出来ないでいる状況です。学生の皆様も社会人になったらまったく自分の時間がないということではありませんが、学生時代と比較すると自由な時間は少なくなるのが一般的であると思います。進路は進学や就職といろいろあると思いますが、残りの半年間、勉強や部活動、友人と交流を深めるなど自分の取り組みたいことに時間を費やし有意義な学生生活をお過ごしください。

Special Interview

～第58回体育祭～

体育祭の「伝統」を受け継ぐ

学生主事補 蓑輪 圭祐

9月27日に開催された第58回体育祭は、コロナ禍前、私が学生だった頃とほぼ同程度のスケールでの実施となりました。黄組の応援歌が、12年前の記憶を鮮明に蘇らせてくれました。着任して3年目、新型コロナウイルス感染症の脅威から早3年、イベントの実施や参加に抵抗感が無くなってきていることに、ささやかな喜びを感じています。

応援団の演舞やデコレーションのパネルは、どれも見応えがあるものでした。4年生は、インターンシップもあり夏季休業中の多忙な日々の中で取り組んだ練習や制作だったと思います。クラスメイトや後輩と同じゴールを目指して過ごした今回の経験が、今後の人生を豊かにしてくれることを願っています。

体育祭実行委員会の皆さんは、「伝統の継続」と「新たな一歩」の両立を目指し、四苦八苦していたように見受けられました。コロナ禍前に行われていたものを復活させたい、でも新しいことにもチャレンジしたいという想いが葛藤し、考えがまとまらないこともあったのではないのでしょうか。1度の挑戦で全てのことが思い描いたとおりになることは滅多にありません。自分たちが出来たこと、出来なかったこと、実現してほしいことを後世に残しておくことが大事です。失われてしまわないように、結果だけでなくその過程も記録にしてください。記憶だけでは、長い時間が「伝統」を全く違う形に変えていたりします。

最後に、参観いただいた保護者の皆様、ご協力いただいた教職員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

体育祭を振り返って

体育祭実行委員長 物質工学科4年 河村 勲士

今年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、全国的に行動制限の緩和が進み、コロナ禍前の生活様式に戻りつつあります。その流れに乗るかたちで、今年度の体育祭ではコロナに関する制限を設けませんでした。

前年度にあった「密集時の声出し禁止」等の様々な制限がなくなったためか、今年の応援団は夏季休業中の練習時から一段と気合が入っているように感じました。体育祭当日、グラウンドに響き渡る威勢の良い声や華麗な演舞、競技で沸き起こる歓声が体育祭を大きく盛り上げ、活気あふれる賑やかな大会となりました。コロナ禍の最中に歴任した体育長らが模索し続けていた「コロナ禍前の体育祭」の集大成となるものが開催できたのではないかと思います。

今回の体育祭では、近年行われなくなっていたものをいくつか復活することができました。その最たるものがデコレーション(デコレ)です。長らくデコレは行われておらず、不安な部分も非常に大きかったですが、各団デコレ担当の4年生が工夫を凝らしたパネル作品を制作してくれました。いずれの作品も、サイズも相まって圧巻の仕上がりでした。

デコレの他に、吹奏楽部の行進曲演奏や色別対抗リレーの教員枠も復活しました。今大会をきっかけとして、一度途絶えた伝統を来年度以降も紡いでくれることを期待しています。

最後に、私の未熟さゆえに至らぬ点多々あったかと思いますが、体育祭の開催にお力添えをいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

～第58回体育祭～



Special Interview

～第58回体育祭～

黄組最高!

3B 渡邊 駿介

今年の体育祭は、天候にも恵まれ無事全競技が実施されました。学年競技の竹取物語は、物を奪い合ってポイントを稼ぐという競技でした。友達と作戦を立てたり、声を掛け合ったり、クラス全員が一体となって挑みました。結果は二位でしたが、白熱した戦いでクラスの団結力も深まり、とても楽しかったです。クラスメイトが全力でプレーしている姿はとてもカッコよく、普段とのギャップを感じました。

わたしは去年に引き続き、今年も応援団に所属しました。高校最後の大会に向けた部活の練習も多くあり、応援団の先輩や後輩に迷惑をかけたくないという思いから、最初は参加を躊躇していました。しかし、先輩方の熱い気持ちに惹かれて参加を決心しました。黄組の応援は練習量が多くきついです。夏休み期間から練習が始まりましたが、正直、部活との両立が大変でした。そんな中でも先輩方は、決して私のことを軽蔑・罵倒したりすることではなく、むしろ、とても親切に優しく接してくれました。踊りに関しても、友達や先輩方が丁寧に教えてくれたり、休憩時間などもみんなではしゃぎ合ったり、控えめに言って「黄組最高!」という感じでした。

迎えた体育祭当日、黄組応援団約六十人で作り上げた応援を、最高のパフォーマンスで披露することができました。応援でも総合でも優勝することができて、心の底から嬉しかったです。二年連続応援団に所属し、沢山迷惑をかけてしまいましたが、応援団に所属したからこそ先輩や後輩、そしてクラスメイトと仲を深めることができたと感じています。今では応援団が恋しいくらい大好きです。今年受けた恩恵を「六連覇」という結果で返せるように、来年もまた今年以上の応援を作り上げていきたいです。そして、今年のかっこいい先輩方を見習って、自分も後輩から憧れられるような存在になれるように日々精進していきたいです。

第58回体育祭成績一覧

部門	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	技	青組	黄組	赤組	緑組	白組
競	技	青組	黄組	赤組	緑組	白組
応	援	黄組	緑組	白組	赤組	青組
デ	コ	黄組	赤組	白組	緑組	青組
レ		黄組	赤組	白組	緑組	青組
総	合	黄組	青組	赤組	緑組	白組



Special Interview

～ディベートコンテスト(旧弁論大会)～

ディベートコンテスト
(旧弁論大会)について

学生主事補 加藤 寛敬

今年度は弁論大会の名称をディベートコンテストに変更し、高専祭の1日目の午前中に実施しました。名称変更したのは、イベント名と実際の内容をできるだけ一致させたいという意図があったようです。このイベントが開催されるのは2年ぶり、人数制限なしでの対面での開催は実に4年ぶりとなりました。したがって、準備にあたった学生さんは大変苦労したことと思います。岡田文化長をはじめ、学生会、文化委員、審査員や担任など関係する先生方、そして何よりも弁士の皆さんのお陰で無事開催することができました。ありがとうございました。

今回のディベートコンテストは、1部2試合ずつの3部構成とし、観戦者を入れ替えて大講義室で行い、Bラボにもライブ配信して自由観戦できるようにしました。本科2、3年の各クラスの代表弁士と教員による弁士2チームが参加し、「学年があがるにつれて高専病のレベルは上がる」「ディベートは人生に必要である」などの6つのテーマについて肯定側・否定側に分かれてディベートが行われました。以前までの第1体育館と比べて大講義室で実施することで弁士と観戦者の距離が近くなり、会場は白熱した討論に惹きつけられ大いに盛り上がったと思います。また敗れはしましたが、教員チームや先輩チームに果敢に挑んだ弁士の学生さんにも拍手を送りたいと思います。

ディベートすると、物事を深く考える力や、説得力のある話し方が身に付いたり、相手の意見を注意深く聞くようになると思われます。私自身も多くのことを学んだように思います。今後、このディベートコンテストが継続してより魅力的なものになっていくことを願っています。

令和5年度文化長を
務めさせていただきました

文化長 物質工学科4年 岡田 歩香

今年は、秋の深まりが平年より早く、令和5年度ディベートコンテスト(旧:弁論大会)は、「文化の秋」を少し過ぎての催しとなりました。

例年と違う点でというと、ディベートコンテストは今年度から大きく形を変える運びとなりました。数年の間、流行した新型コロナウイルスにより、旧:弁論大会は従来通りの開催を阻まれ、開催形態は大きく変化しました。しかし、振り返ってみると、参加頂いた学生たちが笑顔で討論を見届ける姿や、弁士の皆さんが必死に勝つ手段を模索する姿が、鮮明に思い出せます。

正直なことをいえば、私は、開催直前まで新しい形の開催が、不安で仕方ありませんでした。今振り返ってみても、周りの先生方と学生にご迷惑をおかけしながら、そして助けて頂きながら、何とか開催ができたこの催しは、決して確実な成功ではありませんでした。それでも、学生たちがディベートに関心を持って、切磋琢磨しながら張り合い、時には笑顔で観覧したこの催しは、学生たちの貴重な経験になると思えました。コロナ禍を通して、新しい形に変化しようと、この行事の大切さは、学生たちのこの経験にあると学びました。

この数年、本校の先輩方は、新型コロナウイルスによる不安定な状況の中で、沢山の行事の開催のために尽力し、その経験を私たちに繋げて下さいました。その過程の変化は、恐いものではなく、形を変えながらも、大切なものを残すためのものだ実感しました。来年度からのディベートコンテストがどのような催しになるのか分りませんが、その変化もまた楽しみにしています。

Special Interview

～第58回高専祭～

高専祭の開催報告とお礼

学生主事補 波多 浩昭

今年の高専祭は通算58回を迎え皆様のご支援のもと2023年10月27日から29日までの3日間福井高専キャンパス内で無事実施されました。2023年5月に新型コロナウイルスが「五類感染症」に分類されたことにより、今年は自主規制などの制限のない高専祭となりました。これまで数年間は、露店数は10前後、パンフレットのページ数も40ページ程度でしたが、今年はそれぞれ26店舗、50ページ以上という規模にまで復活しました。また学生教職員だけに限られていた入場制限も撤廃されました。

このような規制のない高専祭を経験しているのは5年生だけという状況で、実行委員長をはじめとする4年生以下の学生は経験豊富な先輩からの指導も不十分ななか、半ば手探りで始めた準備では不安と焦りもあったのだと思います。

しかし実施してみると4年前の規制のなかった高専祭と遜色なく、参加学生に加えてご来場された地域住民の皆様にも楽しんでいただけている運営ができていました。規模だけではなく、学生間での高専祭に対する情熱やノウハウの蓄積などを取り戻そうとする学生の決意である高専祭テーマ「REBOOOOORN!」を体現させた高専祭だったと思います。

最後になりましたが、高専祭準備に多大なるご協力をいただきました教職員の皆様、イベントを支えていただきましたスポンサー企業の皆様、ご来場いただきました学外の皆様、そして見守っていただきました青武台をはじめとする地域住民の皆様重ねてお礼申し上げます。

高専祭を実施して

高専祭実行委員長 機械工学科4年 嘉村 光月

第58回高専祭実行委員長を務めました、機械工学科4年 嘉村 光月です。今年の高専祭のテーマは「REBOOOOORN!」でした。REBORNには、再生した・生まれ変わったという意味があります。コロナによる制限が完全になくなったため、学生だけでなく一般の方も楽しめる高専祭を目指して、露店の出店を呼びかけたり、企画数を増やしたり、各部門団結して準備してきました。皆さん今年の高専祭はいかがだったでしょうか。皆さんの思い出に残る楽しい高専祭だったのならば、僕たち実行委員はとてもうれしく思います。

今年の高専祭は雷鳴と同時に始まりました。落雷の危険性から露店は一時営業中止、一部の企画も中止となり、先行きが不安でしたが、無事3日間開催でき、ほっとしています。ダンス同好会やMMCライブをはじめとし、各企画は大いに盛り上がり、思い出に残る高専祭になったと思います。

実行委員長を務めて、企画部門、露店部門、電源部門、装飾部門、パンフレット部門、スポンサー部門、厚生部門、ボランティアで警備をやってくれた学生など、高専祭には非常に多くの学生の協力のもとに成り立っているのだと実感しました。多くの学生の力を合わせて実現された高専祭だったと思います。今年の実行委員の活躍する姿をみて、来年、一人でも多くの学生が実行委員をやってくれと嬉しいです。

最後になりますが、高専祭に協賛してくださった企業の方々、協力してくださった先生方、参加し高専祭を盛り上げてくれた学生、高専祭実行委員にはこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

～第58回高専祭～



お疲れさまでした♪

Special Interview

～活躍する仲間～

令和5年度 福井工業高等専門学校 研究奨励一覧

申請者		研究題目	指導教員	交付金額(円)
物質工学科1年	橋本 らら	(中谷医工技術振興財団報告会)鮮やかな色彩の生物をミミックした環境にやさしい化粧品・色素・紫外線耐久素材研究	川村 敏之 松井 栄樹	110,000
物質工学科1年	市原 千尋	プラスティネーションの限界を探る	長谷川 智晴	117,700
環境都市工学科4年	林 智央	(日本建築学会全国大会) 画像測量を用いた河川断面の解明	野々村 善民	103,400
環境都市工学科4年	窪田 多久見	(全国高等専門学校デザインコンペティション創造部門) 高専デザコン創造部門に出場する作品制作の取り組み	大和 裕也	120,000
電子情報工学科3年	大瀬 怜牟音	(全国高等専門学校ロボットコンテスト)Aチーム 高専ロボコン2023に出場する「FCR-23A」というロボットについて	千徳 英介	150,000
機械工学科4年	中川 翔心	(全国高等専門学校ロボットコンテスト)Bチーム 高専ロボコン2023に出場するためのロボット製作	亀山 建太郎	150,000
			合計	751,100

令和4年度 教育後援会奨励研究概要報告

令和4年度教育後援会 奨励研究概要報告

環境都市工学科5年 野々垣 修慶

私達は、広島県福山市の堂々川砂留における砂坊堰堤の建造年数と確率降水量を用いた流出解析に関する研究を行いました。現地測量のため、私達は新幹線に乗って福山市へ向かいました。当日のスケジュールはとてもハードで、乗り換えに大変苦慮しました。本研究の成果は、『日本建築学会情報シンポジウム2022』にて『砂防堰堤の建造年数と確率降水量を用いた流出解析に関する研究』を発表しました。

デザコンに出場して

環境都市工学科5年 窪田 多久見

デザコン創造部門の本戦出場は、去年に引き続き2度目のことでした。今年は石川高専の建築学科の方達と共同で提案を作り上げていくということで、打ち合わせは主にオンラインで行い、石川高専にも何度か足を運びました。特にテストや長期休暇、学校行事などの期間に差があったため、デザコンに取り組んだ約半年間はお互いの時間を譲歩し合いながら進めていく必要がありました。結果として審査員特別賞を受賞することができました。今回の経験は、自分にとって非常に意味のあるものになったと感じています。

Special Interview

～活躍する仲間～

全国高等専門学校デザイン コンペティションに参加して

環境システム工学専攻1年 田中 ころろ

私たちは、紙を用いてトラス橋を製作しデザインコンペティション2022in有明の構造デザイン部門に参加しました。

今回は初めて参加するメンバーが多く不安なことも多かったですが、無事作品を完成させました。今回の競技の内容は、2つの橋を繋ぎ合わせて1つにし、50kgの載荷に耐えるというもので、全体の結果は14/54位でした。上位入賞はできませんでしたが、他の高専との交流を通して多くのことを学びました。次年度は今回の経験を活かし、より良い結果を残せるよう頑張りたいです。

協力してくださった皆様、ありがとうございました。

ヒトの癌の薬を酵母で研究中

環境システム工学専攻2年 千京 律斗

「微生物でつくる食品」は何でしょう？納豆は納豆菌、ヨーグルトは乳酸菌、パンは酵母でつくります。納豆菌と乳酸菌は原核生物、酵母は真核生物です。私たちヒトは真核生物です。酵母とヒトは真核生物なので細胞の仕組みが似ています。この特徴を利用して、私は酵母を使ってヒトの癌の薬を研究しています。バイオ技術で「遺伝子組換え」や「DNA改変」を行います。研究はワクワクする日もヘコむ日もあります。研究で一番大事なことは楽しく挑戦する気持ちです。未来の薬の研究に興味がある学生さんは松野研究室と一緒に研究しましょう！

高専ロボコン2022と今後

機械工学科4年 中川 翔心

今年の高専ロボコンはミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ！～というテーマのもとで紙飛行機を飛ばして台に載せる競技でした。コロナ渦に入って以降初めてのオフライン大会で、自分自身にとっても他高専と直接対面する初めての大会となりました。

Aチームはブンブン直送便というチーム名で、コンバインに見立てたロボットが紙飛行機をぶん回して、遠心力で飛ばせるようにしました。しかし地区大会では、本来の動作をほとんど行うことができずに終わってしまいました。不本意な結果となりましたが、仲間たちと協力しあってもものづくりをする楽しさを感じられたり、他高専とアイデアや情報の交換ができたりと非常に有意義なものになりました。

ここ数年のロボット部は大会で良い結果を全く残せていませんが、今大会から得た時間管理の重要性など多くの経験を後輩たちに伝え、ロボット部の問題を改善していきます。



Special Interview

～活躍する仲間～

高専ロボコン2022と これからのロボット部へ

機械工学科5年 廣田 成史

今年もロボット部では「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022」に出場するためのロボットを製作しました。昨年度のオンライン形式とは違い、本年度からは実際に試合を行う形式となりました。その内容は紙飛行機を飛ばし、目標の位置に投げ込み、点数を競うというものです。

Bチームのロボット名は「シン・ロボティタン」。モチーフはフクイティタンという首の長い恐竜であり、首が鉛直方向に伸びる機構によって背中に搭載された巨大な大砲を展開し、巨大な紙飛行機を一斉発射するものとなっています。しかし、本番では動作することができず、これらの動きを観客の皆様に見せることができませんでした。ここ最近ロボット部は初戦で動かないというような失敗が多くあります。ですが、モノづくりとは失敗からフィードバックしてより良いものを作ることが根幹にあります。この失敗から得られた教訓は大いにあるわけですから、これから部活を担う後輩と新入生のみんなは諦めずにモノづくりに邁進していきましょう。



各種大会等に参加して

戦い終えて

電子情報工学科4年 前田 学

10月14、15日、サンドーム福井で開催された 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト 第34回福井大会 競技部門で私と高橋知也、辻大知が組んだチーム「蟹高専」が優勝した。優勝した瞬間は頭が真っ白になって何も覚えていない。あとで配信を見返してみたら、実況のマイクに入るぐらいの大きさで思いっきり叫んでいた。

地元で優勝できたことはとても嬉しかったが、何よりも嬉しかったのは高専プロコンの運営の手伝いをしていたクラスメイト達の目の前で勝てたことだった。我々が戦うには、クラスメイト達の協力が不可欠だった。せっかく手伝いをしたのに、福井高専がそうそうに負けてしまえば忍びない。そういった点では、「優勝」という形で恩返しできたのは良かったと思う。

私は、他のチームメイトが力を発揮できるようにしたに過ぎない。彼らへの感謝を忘れないようにしたい。



Special Interview

～活躍する仲間～

結果よりも大切なもの

環境都市工学科4年 佐々木 俊亮

私たち水泳部は、長野県で行われた第58回全国高等専門学校体育大会水泳競技において、メドレーリレーでは2位となりました。また、個人種目では、100、200メートル自由形で優勝、100メートル平泳ぎでは準優勝という成果を収めました。今回の大会はコロナ明けということで、予選・決勝がありました。ハードスケジュールが続く中、素晴らしい成績を挙げられたと思います。

水泳は他の競技と比べ、タイムといった目に見える形で結果が現れます。タイムが伸び悩む日々も少なくありません。そのような中でも、支えてくれる先生、仲間、家族の存在は偉大です。今回、このような成果を収められたのも、背景に様々な人が関与してくれたからだと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、水泳を楽しんでいきます。



輝いた10人の選手たち

物質工学科4年 笠松 青夏

今年は体育館に入った瞬間から色々な思いでいっぱいでした。昨年は団体が優勝したこともあり、プレッシャーを感じていた中、このチームで出場できる嬉しさと、もう一度優勝する気持ちで満ち溢れていました。今年は、5年生と出れる最後の試合だったことと、キャプテンとしての重圧もありました。いつも以上に苦しい試合でしたが、隣を見れば共に一生懸命に戦っている仲間の姿や、応援してくれている仲間がいて、自然と自分が持っている力以上のものが出せました。結果は、準優勝で悔しい結果となりましたが、結果が全てではないと感じた瞬間があります。それは、先輩、後輩の涙をはじめて見たときです。それを見たときに、みんなも相当な覚悟とプレッシャーを背負い、一生懸命戦っていたのだとわかりました。「最高の仲間と一緒に出場できてよかった」という先輩からの言葉を聞いた時は、胸が苦しくなりました。あのとき流した涙は、悔しさの涙でもあったと思いますが、改めてこのチームのキャプテンになれた嬉しさと、このメンバーと、顧問の先生方で最後まで戦い抜けたことに感謝したいです。



～学校通信～

令和5年度第1回及び第2回 学生表彰受賞者一覧

校長特別賞

第3回インフラマネジメントテクノロジーコンテストグランプリ受賞					
環境都市工学科5年	寺前 海斗	環境都市工学科5年	中村 彩乃	物質工学科4年	大瀧 健太郎

校長賞

4年間(4回)学業成績優秀者	
電気電子工学科5年	高橋 壮汰
電気電子工学科5年	瀧 歩空
物質工学科5年	岡田 ひなた
環境都市工学科5年	窪田 多久見
環境都市工学科5年	佐々木 飛翔

第2回高校生まちづくりコンテスト審査員特別賞受賞	
環境都市工学科4年	大澤 愛翔
環境都市工学科4年	高間 海友

26回中部・近畿地区高専将棋大会優勝	
電子情報工学科2年	梶 京四朗

奨励賞

1年間学業成績優秀者					
機械工学科5年	駒 壮悟	環境都市工学科5年	仲下 慶	環境都市工学科4年	鈴木 宏平
機械工学科5年	中山 詞温	環境都市工学科5年	青木 翔佐	環境都市工学科4年	高間 海友
機械工学科5年	横井 春紀	環境都市工学科5年	前田 萌子	環境都市工学科4年	南北 城
電気電子工学科5年	市村 音羽	環境都市工学科5年	堀江 勇正	環境都市工学科4年	長谷川ほのか
電気電子工学科5年	岡田 光生	環境都市工学科5年	田嶋 倅奈	環境都市工学科4年	林 智央
電気電子工学科5年	野尻 健人	環境都市工学科5年	寺前 海斗	環境都市工学科4年	保木 克也
電子情報工学科5年	泉 秀哉	機械工学科4年	明石 光克	環境都市工学科4年	水野 真莉
電子情報工学科5年	遠藤 駿介	機械工学科4年	品川 涼	環境都市工学科4年	KONGSRI WIRINYA
電子情報工学科5年	富坂 弘一	機械工学科4年	高橋 孝太郎	電気電子工学科3年	木谷 駿允
電子情報工学科5年	山岸 優宏	電気電子工学科4年	伊藤 宏基	電子情報工学科3年	岡本 篤舎
物質工学科5年	石森 海嵩	電気電子工学科4年	駒野 真琴	電子情報工学科3年	小川 拓也
物質工学科5年	親崎 智乃	電気電子工学科4年	竹下 朔也	電子情報工学科3年	寛 棕祐
物質工学科5年	窪瀬 陽	電気電子工学科4年	虎田 康佑	電子情報工学科3年	片岡 志菜
物質工学科5年	栗原 廉	電子情報工学科4年	高橋 知也	電子情報工学科3年	斉藤 朱
物質工学科5年	桑原 渚生	電子情報工学科4年	中尾 悠	電子情報工学科3年	西浦 祐生
物質工学科5年	河野 真琴	電子情報工学科4年	彦坂 天壘	電子情報工学科3年	東 菜々花
物質工学科5年	高山 結華	物質工学科4年	河村 勲士	電子情報工学科3年	水野 弘汰
物質工学科5年	富原 颯太	物質工学科4年	細田 真夕	電子情報工学科3年	宮本 結生
物質工学科5年	蓮見 颯太	環境都市工学科4年	大江 康二郎	電子情報工学科3年	渡邊 展匠
物質工学科5年	増田 悠雅	環境都市工学科4年	河元 愛来	物質工学科3年	浅尾 空澄
物質工学科5年	松井 実玖	環境都市工学科4年	小谷 朝日	物質工学科3年	音 羽矢可
物質工学科5年	丸山 和香	環境都市工学科4年	小林 洸太	物質工学科3年	紘谷 聡子
物質工学科5年	三池 遼香	環境都市工学科4年	佐々木 俊亮	物質工学科3年	建石 大和
				環境都市工学科3年	丹羽 大和
				物質工学科3年	法邑 未来
				物質工学科3年	細井 遥和
				環境都市工学科3年	齋藤 大雅
				環境都市工学科3年	佐々木 清和
				環境都市工学科3年	杉田 涼香
				環境都市工学科3年	田中 結菜
				環境都市工学科3年	谷村 和奏
				環境都市工学科3年	中村 優真
				環境都市工学科3年	野尻 唯奈
				環境都市工学科3年	松田 岳
				環境都市工学科3年	三田村 美菜
				環境都市工学科3年	宮下 育三
				環境都市工学科3年	山崎 更
				環境都市工学科3年	渡邊 駿介
				電気電子工学科2年	堤 虎牙
				電子情報工学科2年	新河戸 絢仁
				電子情報工学科2年	福嶋 孝太
				電子情報工学科2年	南 裕翔
				物質工学科2年	橋本 凜太
				物質工学科2年	濱島 友明
				物質工学科2年	藤井 結希
				環境都市工学科2年	新井 葵々
				環境都市工学科2年	丹羽 勇帆

TOEICにおいて成績優秀者	
環境都市工学科5年	窪田 多久見

第2回近畿学生住宅大賞企業賞受賞ほか	
環境都市工学科4年	林 智央
第28回北陸の家づくり設計コンペ佳作、第18回学生設計作品合同講評会優秀賞	

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022北陸センター所長賞受賞	
電子情報工学科4年	中尾 悠

Special Interview

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が18、文化部が9、同好会が13あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 陸上

陸上部は、主に学校のグラウンドで活動を行なっています。選手たちは日々目標をもってトレーニングに取り組み、諸大会で多くの成果を上げています。また、部活の雰囲気は明るく、メンバー同士が楽しく活動し、協力し合うことを大切にしています。

指導教員 東 章弘、松山 哲士



体育部 卓球

卓球部は男子13人女子4人の計17人で高校の大会や高専大会に向けて練習しています。卓球部は全員が同じ目標を持って練習しているため、同級生はもちろん、先輩や後輩と仲良くなることのできる部活です。

指導教員 山本 幸男、大和 裕也、青山 義弘



体育部 バレーボール

バレーボール部は、高校大会や高専大会に向けて日々練習に励んでいます。チームワークが良く、笑顔あふれる楽しい部活動です。R5年東海北陸地区高専大会では、男子は4位、女子は2位という好成績を収め、現在も次の大会に向けてチーム一丸となって練習に取り組んでいます。

指導教員 金田 直人、芹川 由布子、土田 怜



文化部 空間デザイン

空間デザイン部の活動内容は、設計コンペや学会発表に参加することです。今年度の成果は、インフラテコンにおいてグランプリを受賞したことです。また、5名の部員が建築学会大会において研究発表を行いました。

指導教員 野々村 善民、西城 理志



同好会 折り紙同好会

私達は、週に一回、高専祭等での展示に向けて、作品作りに励んでいます。取り組んでいる作品は、難解系シンプル系、ユニット系など、人それぞれです。手先に自信がある方、新しい事を始めたい方は、是非入会して下さい！

指導教員 柳原 祐治、井之上 和代



同好会 文芸同好会

私たち文芸同好会は毎週水曜日にコミュニティルームで活動しています。主に読書や小説の創作を行っており、日々楽しく活動しています。小説を書いてみたい、読書仲間が欲しい、という人はぜひ体験に来てください。

指導教員 池田 彩音

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 女子バスケットボール
- 男子バスケットボール
- ラグビー
- サッカー
- 野球
- バドミントン
- テニス
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- ロボット
- アマチュア無線研究会
- 放送・メディア研究会
- 建築構造デザイン

同好会

- 天文
- 茶道
- サイエンスクラブ
- フットサル
- ダンス
- 音鍵研究会
- スポーツライミング
- 珈琲
- プログラミング研究会
- 書道
- セパタクロ

Special Interview

～学校通信～

本校に着任して



「自分の客観視」は永久の課題

電気電子工学科 濱住 啓之

令和5年4月に東京高専から着任いたしました。授業は電気磁気学、計測工学、情報通信工学などを担当しています。主な研究分野はデジタル無線伝送です。

私は本校の卒業生で、36年の企業生活と5年の教員生活を経て41年ぶりに鯖江に戻ってまいりました。東京の生活から一転、山々と田んぼに囲まれた自然豊かな香りがする母校での生活、懐かしさを感じる反面、時の移り変わりに緊張感を感じています。

日頃から最も気を付けたいと思うことは「自分の客観視」です。人は自分の姿を自分で見ることはできないもので、啓発・研鑽は一人では無理だと思います。頑固になりがちな還暦を過ぎてからの着任ですが、皆様からのアドバイスを大切に、高専教育に貢献してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



不安は膨らむばかり

電気電子工学科 福嶋 宏之

本年度より本校に着任した福嶋宏之です。福井高専電気電子工学科を卒業後に専攻科に進学し、博士後期課程修了後すぐにこちらにきました。大学時代では、X線などの放射線検出を専門に研究をしていました。放射線は人間の目では直接見ることができないため、可視光に変換することで、放射線が見えます。

放射線というと、恐ろしいイメージがあるというのが一般的です。目に見えないものはなんだか恐ろしく感じますが、特性を理解すると、不安はなくなります。ホラー映画とかもそんな感じでしょうか。最初は分からないので怖いですが、2周目は怖くないですね。

皆さんもこれから先、どうなるのか分からない不安が何かしらあると思います。そんな時は先輩や先生に相談してみてください。これまでの経験や知識を教えてください。皆さんの行く先を少しでも拓いてくれるかもしれません。私も分からない事が多いので、話し相手になってくれると嬉しいです。



自己紹介

一般科目教室 中谷内 悠

本年度4月から一般科目教室(社会科倫理)に着任しました中谷内悠と申します。

自然豊かな福井に移り住めて幸せに思っています。学校からの帰り道にはホテルに、家から徒歩圏内の山ではカモシカに会えるなど自然の近さを実感しています。しかし近さゆえの心配事もあります。熊です。そこかしこでの目撃情報。山道を走れば「熊注意」の看板が。バイクで走っているときなど、注意と言われてもどうすればいいのか。

熊に対する過度な不安は単に私のビビりな性格を表しているだけだと思いますが、熊に限らず獣害一般に関して、その原因は人と自然との関わり方にあるといわれます。かなり大雑把ですが、ここには一つの倫理問題があり、それは私の日常の延長線上にあります。

倫理の教員としては、学生のみなさんが日常(とその延長線上)にある問題に対面し、考えていくための手助けを行っていただければと思います。



「答えのない問い」を考えること

一般科目教室 松山 哲士

一般科目教室(国語科)助教として着任しました。高専とは無縁の人生を送ってきたため、着任当初は分からないことだらけで戸惑うばかりでした。それでも、様々なサポートをいただきながら、何とか勤めることができております。いつもありがとうございます。

さて、私の授業では度々「答えのない問い」を扱います。同じ文章であっても、10人が読めば10通りの受け取り方・考え方が存在し、そのどれもが正しいというものです。ここで重要なことは「自分の考えには自分が一番自信を持つ」ことだと思います。「答えのない問い」を考えることは、何も国語の授業だけに限られた話ではありません。むしろ、世の中は「答えのない問い」で溢れていることでしょう。そんな問いへの向き合い方を、私の授業で練習してほしいと思います。そのために、まずは私自身が率先して思考できるよう精進してまいります。

Special Interview

～学校通信～



本校に着任して

一般科目教室 木下 若奈

4月より英語科教員として着任しました、木下若奈です。専攻は英語学、生成文法論という英語そのものを研究する分野です。英語を研究するきっかけになったのは大学の講義でした。「らっきょう」と「ランドセル」の“ら”はそれぞれ違う音であると言われた時、ワクワクが止まりませんでした。2語をローマ字表記すると「らっきょう」は“rakkyou”、「ランドセル」は“landoseru”になるのです。日本語母語話者の私たちも知らないうちにRとLを使い分けることができている。

英語が苦手な人の中には発音の難しさ、聞き取れないことを理由に挙げている人がいると思います。しかし、実は気づいていないだけで英語の発音、聞き取りをできているかもしれません。

皆さんがワクワクするものを研究する時に英語は必要になってきます。すぐに諦めず、実は英語ができるかもしれないという気持ちで学んでください。



高専生の「あたりまえ」

事務部長 伊藤 幹雄

4月に着任しました事務部長の伊藤です。出身はお隣、石川県の能登です。高専での勤務は富山、石川で経験がありましたが、その後しばらく東海地方の大学で勤めていましたので、久しぶりになります。戻ってきて「やっぱり良いな」と感じたのは、すれ違う学生の皆さんが挨拶をキチンとされることです。私たちは好むと好まざるとにかかわらず、他者と共に生活しています。挨拶は人間関係を築いていく第一歩ですが、どこの高専生も挨拶はしっかりできます。自然に挨拶ができると好印象を持たれますし、常識のある人だと思われれます。そして人間関係も良くなります。自然な挨拶はプラスになってもマイナスになることはありません。逆に、できないと印象は良くないですし、常識に欠ける人と見られます。この挨拶ができるという高専生の素晴らしい「あたりまえ」がこれからも受継がれていくことを望みます。

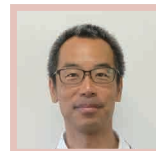


本校に着任して

総務課課長補佐 金森 周二

就職以来、福井大学(松岡Cと文京C)で長年仕事をしてきた私で、内心は環境が変わりどうなることかと思いつながら福井高専総務課に着任してまいりました、そうこうしているうちに異動して半年が経ちここでの生活サイクルに最近やっと慣れてきたと

ころです。また、先生方や職員の皆さんとも仕事の上ですが話ができ、顔も大分覚えられたかなと思っています。ただ、なかなか慣れなかったのが通勤でした、そこに一筋の光明がありました、それは落語です。朝7時から8時にFMで放送している「上方演芸会」という番組、米朝さんや枝雀さんの落語がちょうど通勤時間の1時間聞けるのです。仕事前にひと笑いして業務に入るのも良いものではないでしょうか。これからも高専の業務、精一杯頑張りたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。



福井での冬の生活について

学生課課長補佐 二井土 聡

4月に参りました二井土(にいど)と申します。生まれは大阪ですが、すっかり福井で暮らしている期間の方が長くなりました。これから迎える福井の冬について、雪の多さは大阪出身には実は楽しかったりすることもあります。しかし、曇り空の多さに本当に気が滅入ってしまいます。北陸地方以外から来られた学生さんや教職員の皆さんでも同じ思いをお持ちの方がおられるのではないのでしょうか。

学生課では主に教務関係の仕事をしています。教務係は校内で最も若い係長、最も若い係員というフレッシュな体制で日々業務にあたっています(ちなみに私も課長補佐の中では一番若いみたいです)。教職員の皆さんに色々教えていただきながら、学生の皆さんが充実した高専生活を送ることができるよう、主に教務面から支えていきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願い致します。



図書館でお待ちしております

学生課情報サービス係 黒田 聡子

福井大学から7月に出向して参りました。福井大学採用までは、進学や就職等で約10年間、各地を回っていました。学生や教職員の皆さんが、つい足が向く図書館となるよう努めて参ります。

新卒採用で新聞記者をしておりました。図書館には新聞コーナーがあるのをご存じですか。1日数十ページ分の記事には、膨大な取材の結果が凝縮されています。本なども同様でしょう。新聞や書物は、魂を注ぎ込んで書き込み、何人もの目で校正・校閲された文章です。だからこそ、はっとする気付きや琴線に触れる出会いがあるはずです。

0歳児から小2の母です。娘たちが気に入るような絵本や、野球を習い始めた長男のために「スコアブックのつけ方」を借りたり、「福井県内図書館横断検索」で他館から本を取り寄せたり、自身も図書館を活用しています。豊かな生活のお手伝いができる場として、皆さんのお越しをお待ちしています。

令和5年度学校行事写真



新入生オリエンテーション



球技大会



学生表彰①



学生表彰②



明るい選挙出前塾



舞鶴高専との交歓試合①



舞鶴高専との交歓試合②



舞鶴高専との交歓試合③



18歳成人に備える消費者教育



ひまわり教室



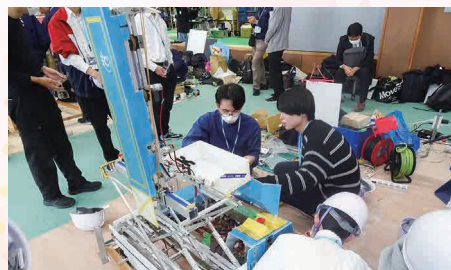
北陸地区高専体育大会①



北陸地区高専体育大会②



北信越サッカー大会



東海北陸地区高専ロボコン①



東海北陸地区高専ロボコン②

編集後記

一難去って…という言葉がありますが、コロナ禍後、学校行事や各種大会・コンテスト・資格試験などコロナ前よりも学生の活躍が多みられるようになったと感じます。遠隔授業や会議も当たり前になり、「一難」が生物を進化させる所以と通じると思いました。

長く続く青武台だよりの歴史の一ページとして、時代の流れや環境の変化を克服しながら、力強く歩む福井高専の一端を印すことができれば幸いです。(川村)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日:令和5年11月30日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111